

昭和53年度帰国研修員巡回指導

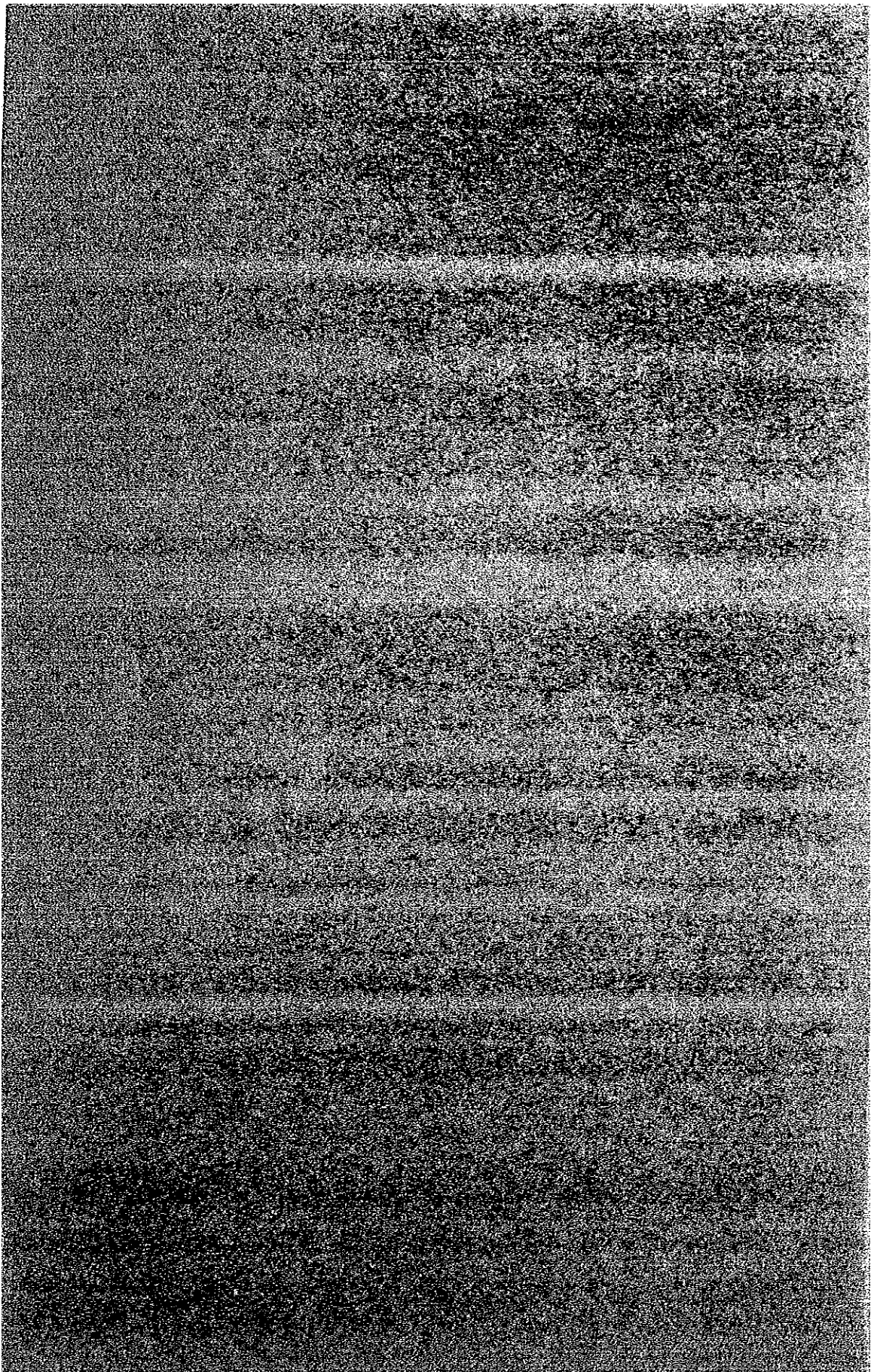
家族計画関係巡回指導班

報告書

国際協力事業団  
研修事業部

120  
98.2  
TAF

研	一
J	R
79	9



## は　じ　め　に

この報告書は、我が国が実施してきた家族計画関係集団コースに参加した帰国研修員に対するアフターケア業務の一環として、昭和53年11月21日から12月2日までの12日間、スリランカ、ネパール及びバングラデシュの3カ国に派遣した家族計画関係巡回指導班の業務報告である。

本書が、帰国研修員の活動状況、彼らが抱えている諸問題、要望等について関係各位の一層深いご理解をいただくための一助となり、今後の研修コース、また、研修員受入事業の改善に資することができれば幸いである。

なお、本件の実施のためにご協力を賜わった外務省、厚生省、(財)家族計画国際協力財団及び現地において数々のご指導とご協力を賜わった在外公館並びに関係機関の皆様へ深甚の謝意を表したい。

昭和54年3月

研 修 事 業 部

部長　八　坂　伝　郎

JICA LIBRARY



1026999[1]

国際協力事業団	
受入 月日 84.5.19	1/20
登録No. 05994	98.2
	TAF

## 目 次

1. 巡回指導班派遣の経緯・目的	1
2.       "       期間・訪問国	1
3. 巡回指導班メンバー	2
4.       "       日程	2
5.       "       業務内容	3
6. 結 論	4
7. 各国の印象	6
8. 今後のセミナー及びフォローアップ事業の運営上考慮すべき点	11
表 I 昭和42～53年度開催家族計画セミナー一覧	14
" II 巡回国帰国研修員リスト	16
" III 研修員に配布したアンケート	25
" IV アンケートに対する回答結果	27



## 1. 巡回指導班派遣の経緯・目的

国際協力事業団は厚生省の協力を得て、開発途上国の人材育成に寄与するため昭和42年度より家族計画普及事業の役割を持つ公的機関の担当者を対象とする家族計画の諸セミナーを開催している。

開始当初数年間は毎年1コースを開催し、アジア中近東地域を対象として、日本の家族計画及びその運動の紹介に重点がおかれていたが、以後次第に細分化してコースの数を増やしてきた。同時に中南米諸国もその対象として加え、ここ数年は、年間4コース(家族計画指導者セミナー、家族計画医学保健セミナー、家族計画広報教育セミナー、及び家族計画組織活動セミナー)を開催しており内容的には、各セミナーの目的分野に則して研修員のそれぞれの国における家族計画について情報交換、経験交流、討議を行う時間の比重を高めてきている。

この間実施されたセミナーの回数は39コース、受入れた研修員は500名を越している。(表1)

研修機関としては、昭和42年度は社団法人日本家族連盟が、翌昭和43年度よりは新たに設立された財団法人家族計画国際協力財団が受託研修機関として今日迄一貫して研修を行っている。

本巡回指導班は、帰国研修員の数からみれば比較的中位の国々、スリランカ、ネパール、バングラデシュの3カ国を対象として、帰国研修員の所属機関を訪問し、わが国における家族計画関係の情報の提供、帰国研修員が当面する諸問題についての意見交換、セミナーに対する要望の調査、帰国研修員の動向調査を目的として派遣されたものである。

## 2. 期間・訪問国

昭和53年11月21日より昭和53年12月2日までの12日間

訪問国    スリランカ    ネパール    バングラデシュ

### 3. 巡回指導班メンバー

村松 稔 厚生省国立公衆衛生院 衛生人口学部長  
 大川 博見 (財)家族計画国際協力財団 研修係長  
 松浦 正三 国際協力事業団研修事業部研修第二課職員

### 4. 日程 (表)

国名	月日	業務内容
スリランカ	11月21日	移動 東京→バンコック着
	22日	移動コロombo着、大使官表敬訪問打ち合せ(石岡書記官)
	23日	経済企画省外国援助局次長Mr. E. Sribaddhana 訪問 スリランカ家族計画協会 (事務局長Daya Abaywickrema) 訪問
	24日	保健省家庭保健局にて帰国研修員と懇談セミナー ↓ 途中コロombo地区病院及び家族計画担当大臣Dr. Attapattu 及び保健省次官 Mr. B. C. Perera あいさつ  保健省メンバーと会食
ネパール	25・26日	移動 カトマンズ着 休日
	27日	大使館表敬訪問(樋口参事官) ネパール外務省 日本課々長 Mr. Y. R. Silwal 訪問
	28日	保健省家族計画母子保健プロジェクト局長 Dr. B. P. Pande 訪問 ネパール家族計画協会 (事務局長Dr. Yadav Kharel) 訪問 保健省にて帰国研修員と懇談、セミナー映画上映 大使館員と会食(樋口参事官、大橋書記官)



バングラデシュ	29日	移動 ダッカ着、大使館表敬訪問（浜野参事官） JICA事務所打ち合せ（田中所長） （JICA事務所長宅にて会食）
＃	30日	保健人口抑制省次官 Dr.M.A.Sattar 訪問 同省にて帰国研修員と懇談，セミナー映画上映 大蔵省外国援助局次長 Mr.A.W.Chowdhury 訪問
＃	12月1日	Zero Population Growthプロジェクト DND地域 訪問 山下・斉藤専門家同行 保健・人口抑制省メンバーと会食 移動予定なるも航空便遅延によりダッカ泊
	12月2日	移動 ダッカー―バンコック―東京着

## 5. 業務内容

- (1) 家族計画分野におけるわが国の最新の技術、動向、情報の提供
- (2) 帰国研修員がセミナーに参加して得た知識・技術の適用度評価
- (3) 家族計画分野における3カ国の一般的状況、技術水準の把握、及び今後のセミナーに対するニーズの把握。
- (4) 対象機関の概要、帰国研修員の動向調査

なお、本巡回指導班は日本の家族計画の紹介、最新情報の提供に資するため、下記の機材を携行し各国関係機関にて上映及びその寄贈を行った。

機材名 (1) 16 m/m映画フィルム

「My FP Trip in Japan」 約30分カラー

(2) 書籍

(i) 「Basic Readings on Population and Family Planning in Japan」

(ii) 「Fertility and Family Planning in Japan」

寄贈先 (1)および(2)(i)(ii)

スリランカ：保健省 家庭保健局

ネパール：保健省 ネパール家族計画母子保健プロジェクト

バングラデシュ：保健人口抑制省 人口抑制家族計画局

(2)(i)および(ii)

スリランカ 家族計画協会

ネパール 家族計画協会

更に本巡回指導の業務を効果的に実施するため、あらかじめ帰国研修員に質問書(表Ⅱ)を送付し、現地においては会合の際提出してもらい、意見の交換を行った。

## 6. 結 論

### (1) 各国の本事業に対する評価

各訪問国における家族計画実施機関及び帰国研修員は、セミナーに対し概して良い評価を与えている。

その理由としては、

- (i) 一般的な先進国概念としての欧米ではないアジアの国である日本の家族計画の成功例がこれらの国に対し説得力をもっていること。
- (ii) 欧米諸国、国際機関で行われるセミナーは、比較的、理論的な傾向が強いのに対して、我が国におけるセミナーは、戦後地域社会において行われてきた母子保健・家族計画の実践例を見学、体験するなかで、それをそのまま応用出来ない面はあるにしても、昨今開発途上国においてさかんに言われているコミュニティ・パーテシペイションを如何に喚起するかという点で大きな参考になっていると考えられること。
- (iii) 研修機関及び見学先における人的交流のあたたかさ。
- (iv) セミナーの実施方法として、各々の開発途上国における家族計画プ

プログラムの進捗状況及び国際的な動向についての討議の場を提供していることは、各国間における多様性はあるにしても共通な問題点を把握するうえで有益であること。

などである。

## (2) 帰国研修員の動向

各国ともこの点に関しては、多くの帰国研修員が中央ないし地方のレベルの各機関において重要な地位を占めている。(スリランカにおいて特に顕著である。)とりわけ中央レベルでは各国とも10名以上のものが現職についており、日本のセミナーに参加し、そこで得た知識経験が業務の共通基盤として大いに役立っている。

## (3) 各国の動向

家族計画の効果は具体的には、出生率の低下、人口増加率の低下であろうが、各国の社会、経済、文化、宗教など諸条件を背景として見た場合一朝一夕にその効果を論じ得るものではない。しかし、各訪問国で感じられたことは、家族計画のアクセプタンス(受容)が次第に民衆の中に伸びてきているということである。とりわけ男女双方とも不妊手術のアクセプタンスが顕著な増加傾向をみせており、その需要に応ずる態勢が追いついていないように見受けられた。技術面からみればビル・IUD(子宮内避妊器具)ラバロスコピーによる女性不妊手術等欧米の技術の影響が強いように思われた。ビルは別としても、コンドーム、IUD、女性不妊手術法等における我が国の技術がより積極的に紹介されてしかるべきである。

## (4) セミナーに対する要望

(i) 帰国研修員からはリフレresherコース的なものへの要望が強かったが、同時にlowerレベルの担当官に照準をあわせたコースを設けてほしいとの要望もあった。しかしながら各国ともまだ数多くの研修員の候補者をかかえている現状、更に我が国の受入態勢等も考慮する

と、この点について早急な結論をだすのは困難であろうが、今後検討する余地はあると考えられる。

(ii) セミナーの期間については若干の延長を望むもの、スケジュールのタイトさを指摘するものが見受けられた。

(5) フォローアップ事業に対する要望

今回の巡回指導班の派遣については各国とも好意的に対応してくれたが、他のJICAのフォローアップ事業、即ち資料の送付期間、送付方法、同窓会の組織化については充実を望む声が非常に強かった。一方家族計画国際協力財団が帰国研修員に対しても送付している「JOICFP NEWS」は、更に充実を求める声はあるにせよ、帰国研修員との連絡を保つ点において非常に効果的である感を受けた。

## 7. 各国の印象

### (1) スリランカ

われわれが最初に訪問した Ministry of Planning and Economic Affairs, External Resources Department, Assistant Director, Mr. E. Siribaddhana は、JICAが現在スリランカに提供している医療・保健関係コースの研修員割り当て数は少ないので、現在の家族計画セミナーの一回あたり割り当て1名のところを、2名に増員して欲しいとの要望を述べた。

同国は、UNFPA(国連人口活動基金)の援助により、家族計画担当者をインド、シンガポール、マレーシア、インドネシア、フィリピン等に、1~2週間の家庭保健のフィールド視察に送っている。また英国、米国が、幾つかのディプロマ・コースを提供している。スウェーデンは、避妊器具等の物資援助・保健省家庭保健局の新オフィス建設(400万スウェーデン・クローナ)等の協力を行なっているが、研修コースは主

催していない。

スリランカ家族計画協会は、1953年に設立されて、政府のプログラムに先立ち、家族計画運動の先鞭をつけた。現在では、政府プログラムと競合しない範囲で、広報教育、青年指導者の育成、家族計画クリニックの運営、訓練、幾つかの特別プロジェクト等を行なっている。政府もこれに補助金（1977年には35,000ルピー）を支出している。

（家庭保健局の Assistant Director, Dr. S. Y. S. B. Herat も同協会の理事の一人である。）同協会の職員は、JICA のセミナーには送られていない。

家庭保健局では、21名の帰国研修員のうち、12名がわれわれとのミーティングに参加した。その他に、Minister for Colombo Group of Hospitals & Family Planning の Dr. R. Attapattu および Secretary of Health の Mr. B. C. Perera が多忙の中を駆けつけてわれわれ指導班を歓迎してくれた。毎年 JICA が4つの定期的な家族計画セミナーを開催し、スリランカも招待していることに対して感謝の意を表明した。

スリランカでは、家族計画は人種問題やインドのガンジー政権の強圧的な不妊手術推進を一因とする崩壊等の影響を受けて、政治問題化した時期もあったが、今日では完全に正常化した。大統領も人口と開発の関連性を重視し、保健大臣とは別に家族計画担当大臣を任命している。

スリランカでは、家族計画行政担当の家庭保健局の重要なポストは、すべて帰国研修員によって占められている。同国の家族計画プログラムは保健サービス・プログラムとインテグレートされている。その意味で、我が国の家族計画セミナーのフィールド・トリップに際して、市町村の母子保健家族計画事業を見学する機会のあることは、きわめて有益であるというコメントが多かった。

スリランカでは、一般教育の普及率が高いことと、失業率の高さによ

る生活の困難さが相俟って、家族計画は比較的容易に民衆に受け入れられている。家庭保健局で力を入れている不妊手術は、予測に反して、むしろスムーズに受け入れられている。問題はこれに対するモチベーションの不足ではなく、不妊手術の機材・設備が不足し、民衆のニーズに対して十分なサービスを供給できない点にある。この国に対する家族計画面での医療協力事業は、非常に効果的であると思われる。

## (2) ネパール

われわれが表敬訪問をしたネパール外務省 Joint Secretary for Japanese Affairs の Mr. Y. R. Silwal は、日本がインドに次いで世界で二番目に、ネパールと広範な外交・友好関係を結んでいることおよび同国の家族計画分野にわが国が協力していることに対して謝意を表明した。研修員のノミネーションがしばしば遅れる理由については、研修員の派遣決定には、外務省の他に、大蔵省、企画庁、保健省と4つの機関が関係しているために、調整に時間がかかる点をあげたが、今後彼等としては最善をつくすとその意向を述べた。

次に訪問したネパール家族計画母子保健プロジェクトチーフの Dr. B. R. Pande は、この種の短期研修コースでは、欧米で開催されるものよりも、日本での家族計画セミナーの方が研修効果をあげていると述べた。ネパールの参加者は山間僻地でプロジェクトを担当している責任者が多く、必ずしも英語が堪能ではなく、先進国の国民の如くソフィスティケートされていないために、外国のセミナーに参加すると気遅れし、セミナーについてゆけなれいこともある。しかし、日本のセミナーは友好とホスピタリティにあふれており、帰国した研修員よりいい評価を得ているとのことであった。

更にネパール家族計画母子保健プロジェクト本部での帰国研修員とのミーティングには、帰国研修員数25名のうち12名が参加した。リフレクチャー・コース開催の希望、およびネパールの研修員割り当て教を

各コース1名より2名に増員して欲しいとの要望が表明された。また教人の帰国研修員から「不妊手術」の技術研修のために個人研修に呼んで欲しいという強い申出があった。

われわれ指導班は、またネパール家族計画協会から参加した帰国研修員2名に会うため、同協会を訪問したが、調整が不十分であったために、会うことはできなかった。事務局長のMr. Yadav Kharelに表敬し、同協会の活動の概要について懇談した。

ネパールでは、今年の半ばに首相直轄下にCommission on Populationが組織された。首相が議長、家族計画母子保健プロジェクトのチーフが書記を務め、4つの委員会(家族計画サービス、法律と人口、広報教育および人口移動)があり、それぞれの委員会の議長は関連する省の大臣を務める。ネパール家族計画母子保健プロジェクトは、家族計画サービス委員会の下に置かれている。これは、従来同プロジェクトは保健省の特別プロジェクトに過ぎなかったものが、現在ではさらに高い政治的プライオリティを与えられるに至ったことを示す。

### (3) バングラデシュ

最初に訪問した保健人口抑制省人口抑制家族計画局次官Dr. M. A. Sattarは、日本の家族計画研修を下記の5つの理由で高く評価しており、今後中間レベルの家族計画プログラム・マネジャーを、欧米よりは日本で研修を受けさせたいと語った。

- ① 日本はアジアの国の中で、バングラデシュが将来百年かかって成し遂げたいことを、今日すで実現している良き模範である。
- ② 日本は、西欧に比べて遅い時期、第二次大戦後に家族計画を始めたが、現在までに大きな成果をあげている。
- ③ 日本では、近代的技術と伝統的生活様式がよく調和しており、バングラデシュとしてはこの点が大いに参考になる。
- ④ 日本人のもっている仕事を進める上での能率と技術を学ばせたい。

⑤ 日本は、バングラデシュの良き隣人である。日本はバングラデシュとの外交に高いプライオリティを与えており、非常に友好裡に技術協力をを行っている。バングラデシュの研修員は日本で暖かく迎えられており、アカデミックな討論とともにフィールド見学、日本文化の見聞の機会のあることに満足している。帰国後の彼等の仕事上の態度に私も満足している。

Dr. Sattar は、また将来5～7年の間に日本をも含めて諸外国での研修に、1,200名位のフィールドで働いている家族計画実務担当官を送りたいと述べた。独立戦争による家族計画活動の一時停止、これにつづく1975年の組織再編成による人口抑制家族計画局の誕生という経緯に見ると、バングラデシュの家族計画行政はまだ新しく、組織は十分に機能しているとは言い難い。Dr. Sattar は、日本での研修を、若くて有能な部下を指導下に集めて、強力な組織を築くためのインセンティブに用いたいと考えている。彼はまた日本の明治維新を教訓として受けとり、教育への投資の重要性を痛感しており、日本の研修事業に対し大きな期待を寄せている。

われわれ指導班はまた日本政府が二国間協力を行っているDNDのZPGプロジェクトを訪問した。このプロジェクトはバングラデシュの当面する諸般の困難な事情にもかかわらず、着実に成果をあげており、他のZPGプロジェクト地域にも好影響を与えている。ZPGプロジェクトの第2次段階として、当初の21ユニオンから105ユニオンにプロジェクトを拡大することが決定しているが、バングラデシュ政府は、この拡大プロジェクトにも日本の協力を期待している。同時に世界銀行が5カ年計画で300万ドル融資を行う予定といわれる。

現在DND地域では、数名の短期日本人専門家の派遣の他に、2名の専門家が常時滞在して指導に当たっている。Dr. Sattar は、さらに数名の日本人専門家が長期にわたって派遣され、将来のZPGプロジェクト



トに協力することを望んでいる。

帰国研修員とのミーティングでは帰国研修員数30名のうち14名が参加した。映画「My Family Planning Trip in Japan」の上映は、好評であった。日本のグラスルート・レベルでの活動が良くわかり、民衆に対するモチベーション用教材としても有効であるとのコメントを得た。帰国研修員は、他の2カ国の研修員と同様、おおむねセミナーの内容に満足を感じていた。バングラデシュでは、セミナーの中に、家族計画面のみならず、家族計画の成功を支えてきた近代日本の社会経済開発の歴史のアウトラインも含めて説明して欲しいとの要望があった。

指導班はまた、Ministry of Planning, External Resources Division; Deputy Secretary, Mr. A. W. Chowdhury に表敬訪問を行った。

## 8. 今後のセミナーおよびフォローアップ事業の運営上考慮すべき点

本報告書においてこれまで述べてきたように、今回の巡回指導班の訪問に対し、各国から幾つかの要望が提示された。それらのなかから主要なものをとり上げて、わが国としての対応の可能性について述べてみる。

- (1) 3か国とも、いわゆるリフレッシャー・コースに対する希望がある。すでにわが国での研修を受けた職員が、短期間であっても、再度わが国に派遣される機会の与えられることを望むというのであるが、他方、いまだ一回も来日した経験のない現地職員がかなりの数存在する国もあり、簡単に多数のリフレッシャー・コースをとり上げるにはまだその必要性が十分成熟していない。原則としては、近い将来に関する限り、やはり新規の研修員を主体とすべきであると考えられ、有経験者のなかで特に重要なポストにあるものに対しては、家族計画上級担当者のための「会

議の席にこれを招くなり、あるいはまた、必要に応じてセミナーのソース・パーソン(講師)として招待するなどの機会を考慮すべきであると思われる。

- (2) 家族計画担当官のなかで、指導的立場にあるもののみならず、いわゆる中級またはそれ以下の職員をわが国に派遣したいという希望は、特に Bangladesh に強い。しかしこの提案は、受け入れ態勢を考えると、幾つかの問題点がある。場合によると中級下級職員はその英語の語学力に難があり、またその総数が大きいためこれをすべて短期間に消化するとなると、一回当りの人数がかなりの大きさになる。また、ある一つの国にこの可能性をつくれれば、他の国々からの同じ要請を断わることは難しく、ますます人数の多さが問題となる。

現在の状況の下では、中級またはそれ以下の職員の研修は、むしろそれぞれ国の首都に集めて行い、これに対してわが国が人的、物的に協力することを考えるほうが、現実的であると考えられる。

- (3) 今回の巡回指導は3カ国に限られたが、広くアジア、中東、ラテン・アメリカの家族計画を観察すると、そのプログラムの進展の段階に格差のあることが認められる。いわゆる ASEAN 諸国は先進型であり、南アジアがこれに続き、ラテン・アメリカのメキシコ、ブラジル、コロンビアなどは概して後進の段階にある。

現在のごとく、セミナーを項目によって4つに分類する形式も1つの形であるが、年度によっては、プログラムの進展の段階に応じた分類によるセミナーを行ってみることは、新しいアプローチとして考慮に値する。例えてみれば、上級、中級、初級セミナーということであるが、これによって参加者の間における討論の水準がある程度揃い、その内容がより満足なものになると期待される。

- (4) 不妊手術の個別研修に対する希望は、可能な限り実現することが望ましい。ただこの場合、研修員受け入れ機関の数は多くないから、その人

員数が限られたものとなるのはやむをえないであろう。

- (5) 帰国研修員へのフォローアップ・サービスとしては、家族計画国際協力財団の「JOICFP NEWS」の他に、セミナー議事録、JICAの刊行物を送付することが望ましい。
- (6) わが国のセミナーにおけるフィールド・トリップに対する評価は一般に高い。家族計画の分野で地域住民の参加が重要視されている今日、このような現地見学の機会を設けることは時宜をえたものといえることができる。

したがってこの事業の継続は必要であるが、同時にその内容をさらに充実することを検討すべきである。現地の状況説明のための英文資料の整備、視聴覚資料の作成などは、研修員が内容を十分に理解するうえで役立つ手段となる。いずれにせよ、訪問先の現地における人間的な歓迎という「情緒」とともに、研修事業としての「実質的価値」を高めるよう配慮する必要がある。

- (7) 国際協力の分野において「人」に対する投資は重要である。「物」に対する投資も重要ではあるが、ある国のある人に対する研修は、その人が生きる限りその人のなかに効果を残すという点で、意義が大きい。このことはもとより家族計画に限ったことではない。従来わが国の家族計画での協力は「物」の流れを主体としてきたが、今後は「人」を相手とするセミナーの重要性が高まるものと思われる。したがって、これに対応できるわが方としての人的態勢を充実することが緊急の課題となることは明らかである。

表I 昭和42～53年度開催家族計画セミナー一覧

年度	名称	期間	参加者 (参加国)	
42 (1)	家族計画セミナー	1カ月	6名	6カ国
43 (1)	家族計画セミナー	"	8	8
44 (1)	家族計画セミナー	"	16	8
45 (2)	アジア家族計画指導者セミナー	2週間	22	12
	家族計画コース	1カ月	15	8
46 (4)	家族計画マスメディアセミナー	"	16	12
	アジア家族計画指導者セミナー	2週間	17	13
	家族計画プランニングセミナー	1カ月	13	10
	家族計画コース	"	15	8
47 (5)	アジア家族計画指導者セミナー	2週間	9	9
	家族計画広報教育セミナー	1カ月	13	12
	一般家族計画コース	"	9	9
	家族計画プランニングセミナー	2週間	10	10
	家族計画セミナー(特設)			
48 (4)	アジア家族計画指導者セミナー	"	11	10
	家族計画広報教育セミナー	3週間	15	12
	家族計画コース	1カ月	7	5
	家族計画セミナー(特設)	3週間	12	3

4.9 (5)	アジア家族計画指導者セミナー	10日	10名	8カ国
	家族計画広報教育セミナー	3週間	15	11
	家族計画組織活動セミナー	18日	12	9
	家族計画医学保健セミナー	1カ月	7	7
	家族計画実地指導セミナー	3週間	9	3
5.0 (4)	アジア家族計画指導者セミナー		6	5
	家族計画広報教育セミナー		12	10
	家族計画医学保健セミナー	"	8	7
	家族計画組織活動セミナー		17	11
5.1 (4)	アジア家族計画指導者セミナー		9	7
	家族計画広報教育セミナー	2週間	19	13
	家族計画医学保健セミナー		16	11
	家族計画組織活動セミナー		18	13
5.2 (4)	アジア家族計画指導者セミナー		11	8
	家族計画広報教育セミナー		22	14
	家族計画医学保健セミナー	"	20	15
	家族計画組織活動セミナー		12	9
5.3 (4)	アジア家族計画指導者セミナー		9	11
	家族計画広報教育セミナー		15	13
	家族計画医学保健セミナー	"	15	12
	家族計画組織活動セミナー		13	15

表Ⅱ 巡回国帰国研修員リスト

NEPAL

○印 懇談会セミナー出席者

組：組織活動セミナー  
 家：家族計画セミナー  
 指：指導者セミナー  
 広：広報教育セミナー  
 マ：マスメディアセミナー  
 プ：プランニングセミナー  
 医：医学保健セミナー

○ Dr. Achyt Mani Acharya (家 '73)

Instructor,  
 Faculty of Community Medicine  
 Institute of Medicine, Tribhuvan University  
 Training Section, FP & MCH  
 Kathmandu

○ Mr. Kamal Krishna Joshi (家 '73)

Ex-Public Relations Officer of the Family  
 Planning Association of Nepal

○ Mr. Shyam Kumar Pradhan (マ '72) (広'74)

Accountant General, Ministry of Finance,

Dr. Hare Bhakta Shrestha (指 '73)

Regional Medical Officer, Nepal Family  
 Planning & Maternal Child Health Project,  
 Kathmandu

Dr. Rewa Shrestha (プ '72)

Medical Officer, Dhran Hospital, Kathmandu

Dr. Krishna Bahadur Singh (家 '68)

Family Planning Association of Nepal,  
 Kathmandu

○ Mrs. Vijaya Upadhyaya (広 '74)

Medical Officer, Nepal Family Planning and  
 MCH Project, Health Department,

○ Mr. Buddhi Dhar Vajra (家 '72)

Chairman, Town Panchayat, Patan (Executive  
 Member, Family Planning Association of Nepal),  
 Kathmandu

Mr. Yogendra Raj Sharma (組 '75)

Supply and Procurement Officer,  
 Family Planning and MCH Project

- Mrs. Chandra Shrestha (医 '75)  
Senior Public Health Nurse,  
Family Planning and MCH Project
- Dr. Jagidsh Prasad Sharma (指 '70)  
Joint Secretary,  
Ministry of Information and Broadcasting
- Mrs. Sevitri Joshi (医 '76)  
Senior Public Health Nurse, Central Clinic,  
Family Planning and MCH Project
- Mr. P.M. Shrestha (組 '76)  
Family Planning Officer,  
Family Planning and MCH Project
- Mr. Rajkishore Singh (広 '76)  
District Family Planning Officer,  
Family Planning and MCH Project  
District Office, Chitwan, Bharatpur
- Mr. Subarna Jung Thapa (広 '75)  
Health Educator,  
Family Planning and MCH Project,  
Bahadur Bhawan, Kathmandu
- Mr. Meti R. Tuladhar (指 '77)  
Under Secretary,  
Ministry of Health
- Dr. Mahendra Prasad Nirola (組 '77)  
Nepal F.P. MCH Regional Training Centre  
Family Planning and MCH Project
- Mr. Mitra Prasad Maskey (広 '77)  
District Family Planning Officer,  
Dharan
- Dr. Mahendra Keshari (広 '78)  
Regional Medical Officer,

- Mr. Mukund Raj Baidya (広 '78)  
Audio-Visual Officer,  
IE & C Division,  
Family Planning and MCH Project,  
Ramashaputu, Kathmandu
- Dr. Yesho Pradhan (医 '78)  
Medical Officer,  
Family Planning and MCH Project
- Mr. Satya Am Shrestha (指 '70)  
Private Secretary to the Minister of  
Health, Education, Law and Justice
- Dr. R.B. Singh (指 '71)  
Senior Medical Officer,  
MCH,  
Department of Health
- Dr. Y.N. Sharma (指 '75)  
Project Chief,  
Family Planning and MCH Project
- Mr. Hari Narayan Yadav (組 '78)  
Family Planning Officer,  
Family Planning and MCH Project



SRI LANKA

- Dr. Kamini Sujatha Alahakone (家 '72)  
Medical Officer, Family Health Bureau,  
Ministry of Health,
- Dr. Lily Navamany Fernando (家 '69)  
Family Health Bureau, Ministry of Health,  
5 Bagatalle Road, Colombo 3
- Dr. S.Y.S.B. Herat (指 '71)  
Assistant Director, Maternity and Child Health  
Services, Ministry of Health
- Dr. Sarath Padma Kularatna (広 '73)  
Obstetrician & Gynaecologist, Base Hospital,  
Matara
- Dr. Saravanamuthu Mohorkadan (ブ '72)  
Medical Officer, Maternity and Child Health,  
Jaffna
- Dr. Reginald Hubert Peiris (ブ '73)  
Assistant Director, Health Services  
Ministry of Health
- Dr. Don Abraham Ranasinghe (家 '67)(指 '70)  
Ex-Professor of Ob. & Gyn., University of Sri Lanka,  
Colombo (retired)
- Dr. (Mrs.) Jayasumana Tanakkahe wage Maline De Silva (組 '74)  
Medical Officer, Family Health Bureau,  
Department of Health Services, Ministry of  
Health,
- Dr. Nimal W. Vidyasagara (ブ '73)  
Medical Officer (MCH), Family Health Bureau,  
Ministry of Health,
- Dr. Kulasiri Hemachandra Waidyaratna (ブ '71) (広 '72)  
Medical Officer, Maternal and Child Health,  
S.H.S. Division, Kurunegala

- Dr. Shirley Clement Weerakody (組 '75)  
Medical Officer (Training),  
Family Health Bureau,  
Ministry of Health
- Dr. L.N. Rajendra (組 '76)  
Ex-Assistant Director of Health Services,  
Office of Director of Health Services
- Dr. Sanath M. Goonesekera (医 '76)  
Medical Officer (Health Education and Nutrition),  
Family Health Bureau,  
Ministry of Health
- Mr. Nihal Gamini Wijesooriya (広 '77)  
Deputy Superintendent of Health Services,  
Colombo
- Dr. Chandra Dasa Herat (医 '77)  
Additional Deputy Director of Medical Services,  
Ministry of Health
- Dr. Dingiri Banda Neangoda (指 '78)  
Superintendent of Health Services,  
Kandy, Ministry of Health
- Dr. T. Nagaratnam (医 '78)  
Superintendent of Health Services
- Dr. R.A.S. Rabel (広 '72)  
Senior Medical Officer, Family Health Bureau,  
Ministry of Health
- Dr. Herbert A. Jesudason (広 '75)  
Director, Health Service, Ministry of Health
- Dr. C.P.W. Sriwardhana (広 '76)  
Medical Officer, Maternal and Child Health  
Office, Ministry of Health, Kurunegala
- Dr. Ranawella Liyanage Bertie Silva (組 '78)  
Medical Superintendent, Lady Ridgeway Hospital

BANGLADESH

- Mr. Ziauddin Ahmed (広 '73)  
Assistant Director, Information, Education and  
Motivation, Directorate of Population Control  
and Family Planning
- Dr. Jahan Ara Rabbee (家 '67)  
Director, National Institute of Population  
Research and Training, Dacca
- Mr. Abul Hashim (家 '73)  
District Family Planning Officer, Dacca,  
Directorate of Population Control and Family  
Planning
- Mr. Muhammed Abdul Haye (フ '73)  
Ex-Director of Labor, Department of Labor  
(retired)
- Dr. Shalmsul Hoque (医 '74)  
Ex-Principal, Family Planning Training-cum-  
Research Institute, Chittagong (retired)
- Mr. Mohammad Nurul Hossain (広 '74)  
Deputy Director, Logistics and Supply,  
Directorate of Population Control and Family  
Planning
- Mr. Mahmood Aminul Islam (指 '73)  
Counsellor, Embassy of Bangladesh in Pakistan,  
Islamabad
- Mr. Akhtaruzzaman Khan (広 '74)  
Manager, Transport Equipment and Maintenance  
Organization (Central Warehouse), Directorate of  
Population Control and Family Planning
- Mr. M.S. Mabud (フ '73, 広 '75)  
Deputy Chief, Population Planning Section,  
Planning Commission

- o Dr. Sadequr Rahman (家 '73)

District Medical Officer, Dacca, Directorate of  
Population Control and Family Planning
- o Mr. Anisuzzaman Khan (組 '75)

Assistant Director, Transport, Directorate of  
Population Control and Family Planning
- o Mr. Sayed Mohammed Rezaur Rahman (組 '75)

Deputy Director, Information, Education and  
Motivation, Directorate of Population Control  
and Family Planning
- Mrs. Rahman Jowshan Ara (広 '76)

Assistant Director and Population Program  
Officer, Department of Social Welfare
- Dr. Muslimddin Kabiraj (医 '76)

Assistant Professor of Physiology, Dacca  
Medical College
- Mr. Birendra Lal Khisa (組 '76)

Thana Family Planning Officer, Directorate of  
Population Control and Family Planning
- Mr. Hai Abdul A.H.M. (広 '76)

District Family Planning Officer, Directorate of  
Population Control and Family Planning
- o Mr. Saidur Rahman (組 '76)

District Family Planning Officer, Directorate of  
Population Control and Family Planning
- o Mr. Jalaluddin Ahmed (指 '78)

Joint Secretary, Population Control and Family  
Planning Division, Ministry of Health and  
Population Control
- Col. M. Hashmat Ali (指 '77)

Principal, Dental College and Hospital, Dacca

- Mr. S.M. Abul Hossain (広 '77)

Joint Secretary, Information, Education and  
Motivation, Population Control and Family  
Planning Division, Ministry of Health and  
Population Control
- Mrs. Sadequa Shafiullah (組 '77)

Assistant Director, Department of Social Welfare
- Mr. Md. Hemeyetuddin Talukder (組 '77)

Assistant Director, Administration, Directorate  
of Population Control and Family Planning
- Mr. Syed Ilias Ali (指 '78)

Deputy Secretary, Ministry of Agriculture and  
Forests
- Mr. Md. Abdul Halim (指 '78)

Deputy Secretary, Establishment Division
- Dr. Aminur Rahman Khan (広 '78)

Chief, Population Planning Section,  
Planning Commission
- Mr. Mohd. Abu Taher (個別研修 '77, 広 '78)

Ex-Project Officer,  
Zero Population Growth Project, DND, Dacca
- Dr. Joarder A. Rashid (医 '78)

Additional Civil Surgeon, Jessore,  
Health Division
- Dr. Latifun Nessa (医 '76)

Medical Officer, Postpartum Clinic,  
Mymensingh Medical College Hospital
- Mr. Md. Abdol Hye (広 '77)

Information Officer, Ministry of Foreign Affairs

Mr. A. Abdullah (組 '78)

Project Officer,  
Zero Population Growth Project,  
Shaharasti, Comilla

o Mr. Shamsul Huq Khan (個別研修 '78)

Family Planning Supervisor,  
Zero Population Growth Project, DND, Dacca

Miss Rama Chakraborty (個別研修 '78)

Midwife,  
Zero Population Growth Project,  
DND, Dacca

表Ⅱ 研修員に配布したアンケート

QUESTIONNAIRE (PERSONAL)

Please reply the following questions. (Please write in block letter or typewrite.)

1. General question

- (1) course attended:
- (2) your name: \_\_\_\_\_  
(family name) (others)
- (3) year of your attendance at the seminar:
- (4) home address:
- (5) present office and position  
office:  
position (Please write about your responsibility in detail.):
- (6) address of your present office:

2. Question on the seminar you attended

- (1) Could you frankly say whether the seminar you attended was beneficial to your work after returning home? If so, in what way?
- (2) Do you have any proposal for the improvement of the seminar?
  - a) duration of the seminar:
  - b) presentations and discussions in the classroom:
  - c) field trip:
  - d) other comments:

3. Information and follow-up service

- (1) Do you have any proposals for new seminars to be established?
- (2) What kind of follow-up service do you request?  
(e.g. receiving technical information, revisit to Japan for advanced courses, etc.)

(3) Others, if any.

4. Do you have any request to the Japan International Cooperation Agency (JICA) or the Japanese Organization for International Cooperation in Family Planning (JOICFP) concerning the seminar?

your signature: \_\_\_\_\_



別表Ⅳ アンケートに対する回答の結果

	スリランカ	ネパール	バングラデシュ
帰国研修員数	21	25	30
会合出席研修員数	12	12	14
アンケート回収数	11	8	12

《アンケートに対する回答》

1. セミナーは帰国後有益であったか

Yesと答えたもの 31

2. セミナーの改善について

(1) 期間の長さはどうか

	短か過ぎる	3週間 1名	4週間 4名	2カ月 2名	2.5カ月 1名	6カ月 1名
ちょうど良い	12					
		7				

(2) セミナールームでの講義・討論について

もっと討論の時間を増やして欲しい	6
もっと実地的な討論をして欲しい	1
もっと講義の時間を増やして欲しい	1
現状で満足である	4

(3) 見学旅行について

もっと関係者と討論をしたい	1
草の根レベルでの実地的・具体的活動を見学したい	4
見学旅行の日程をもっと増やして欲しい	6
現状で満足である	5
退屈であった	1

(4) その他のコメント

日程がタイト過るのもっとゆったりした日程にして欲しい	1
----------------------------	---

3. 情報・フォローアップ・サービスについて

(1) 将来どの様なテーマで新しくセミナーをして欲しいか

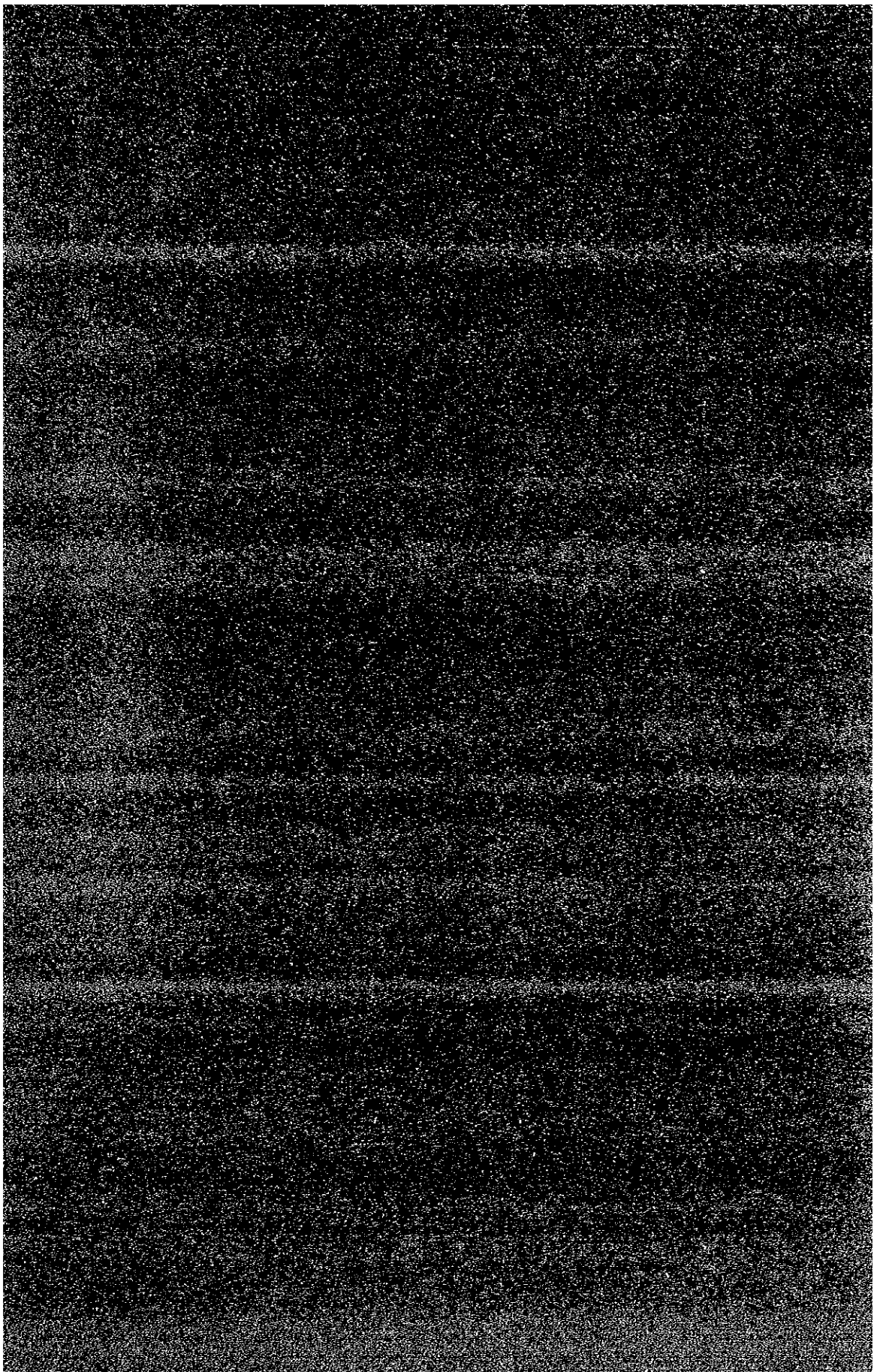
IEC policy	1
Family planning in relation to socioeconomic development	1
Coordination / Administration in F.P. ( Financial も含む )	2
Community Involvement	1
Integrated Approach of F.P. ( with MCH, Nutrition, Hygiene, Sanitation, etc )	6
Problems of F.P. Services Delivery	1
Involvement of Religious Persons in F.P.	1
Population Education in School	1
Basic Human Needs & Fertility	1
Zero Population Growth	1

(2) どの様なフォローアップ・サービスして欲しいか

1) 帰国研修員を講師として各コースに招いて欲しい	1
2) 定期的に technical information を送って欲しい	13
3) 日本で advanced course を開催し招待して欲しい	15
4) セミナー事務局とずっと連絡を保ちたい	13

4. その他の要請事項

1) 二カ国間の F P 専門家の情報交流 ( スリランカ )	2
2) 日本の F P 専門家が我々の国を訪れてもっと実情を知って欲しい ( スリランカ・ネパール )	2
3) 潜在中の日当が少ない	2
4) 研修員を各コースに 2 名ずつ招いて欲しい ( スリランカ・ネパール )	2



JICA